

避難は大切な1枚と一緒に

一見すると、ごく普通の写真立て。でも、フレームの内側には、何と、携帯トイレが——。こんなユニークな防災グッズを京都市南区の株式会社「カスタネット」が開発し、近く販売を始める。



▶「チェレーム」を商品化した植木力さん。大切な1枚は愛猫だった「くるすけ」だ
▲写真立て「チェレーム」の中に収納されているトイレグッズなど、いずれも南区



写真立て内に携帯トイレ 南区の会社開発

災害からの再起「心の支えに」

紙製の写真フレームの内側に収納されているのは、災害時に当座1回分をしのげるトイレセットだ。野外などで用を足さざるを得ない時に使える携帯トイレや凝固剤、用を足す際の目隠しとして羽織って使うマルチポンチョなど計6点が入っている。ポンチョは着替える際の目隠しや防寒対策にも使えるという。

が、年を重ねるにつれて、家族写真が焼けて1枚も残っていないことに寂しさを感ずるようになってきたという。

紙製の写真フレームの内側に収納されているのは、災害時に当座1回分をしのげるトイレセットだ。野外などで用を足さざるを得ない時に使える携帯トイレや凝固剤、用を足す際の目隠しとして羽織って使うマルチポンチョなど計6点が入っている。ポンチョは着替える際の目隠しや防寒対策にも使えるという。

同じような思いを抱えている人が多いことに、毎年欠かさず支援に赴く東日本大震災の被災地で気づかされた。被災直後は写真の話など全くしなかった人たちが、発生から10年たったころからぼつりぼつりと「大切な人の写真が1枚もないのがつらい」と打ち明けるようになった。自分自身の体験と重なった。

「カスタネット」は防災グッズの開発・販売をしてきた。会社のモットーは「防災意識を持ち歩く」。防災グッズは押し入れの中に置いておくのではダメで、日常の暮らしの中で常に意識

を向ける場所になければ役に立たないという意味だ。そこで思いついたのが、大切な1枚を飾る写真立てと防災グッズを合体させることだった。英語で「大切にする、愛おしむ」という意味の「cherish」と、写真を飾る額縁の「frame」を合体させて「チェレーム」と名付けた。障害者が働く作業所で袋詰めしてもらっている。

「大切な1枚が、必ず、再起を期す心の大きな支えになり、希望を取り戻す手助けをしてくれると思う」と植木さん。

背景にあるのは、社長の植木力さん(66)の体験だ。1982年2月、結婚式を10日後に控えた日のこと。宮津市にあった実家が火災で全焼してしまった。当時は気にも留めていなかった

植木力さん(66)の体験だ。1982年2月、結婚式を10日後に控えた日のこと。宮津市にあった実家が火災で全焼してしまった。当時は気にも留めていなかった

サイズは17・2センチ×15センチで、縦置き、横置きどちらでも可能。厚さは1・8センチ。税込み2420円。カスタネットが運営するウェブサイト「そなえる.com」で月内にも販売を始める。16、18日には、大阪市住之江区の国際展示場「インテックス大阪」で開かれる「防災防災総合展2025」に出展する。



トイレや着替えの際の目隠しや防寒対策などとして使えるマルチポンチョ＝カスタネット提供

問い合わせは同社CSセンター(075・662・7200)へ。(日比野啓子)